

LETSTHINK_東邦銀行陸上競技部の取組み

地域とともに

東邦銀行陸上競技部

東邦銀行陸上競技部とは

創部

2011年4月1日、陸上競技短距離の日本記録保持者などを中心とした選手6名、監督で東邦銀行陸上競技部を創設しました。現在は監督、コーチ、選手9名が所属しています。

目指すチーム像

当行陸上競技部では、「福島から世界へ」をスローガンに、世界を舞台に活躍することを目標に、福島県福島市を拠点に活動しています。また、次世代を担う子どもたちを対象とした陸上教室や競技会を開催するなど、地域と共に歩んでいく実業団チームとして、地元福島の子どもたちに元気や希望を与える活動を積極的に行っていきます。

これまでの主な成績

東京2020パラリンピック入賞、世界選手権及び世界リレー日本代表選手を輩出。女子4×400mR、Mix4×400mR、女子60m、女子4×200mRにおいて日本記録樹立。全日本実業団対抗陸上競技選手権大会 総合及び女子総合優勝、日本陸上競技選手権大会優勝、など。



拠点である福島県福島市の街並み



東邦銀行陸上競技部員

**地域とともに歩む、
社会貢献活動についての取組み**

1. 陸上教室 | とうほう・みんなの陸上教室

陸上教室の実施 | 主催

当行主催で年に1度、福島県内の小・中学生を対象とした陸上教室「とうほう・みんなの陸上教室」を行っています。2014年から始まり、今年で8回目となります。これは依頼があるものとは別に、毎年11月頃に当行陸上競技部の全選手・スタッフが参加し、約200名の児童、生徒を対象に「速く走るコツ」として技術指導を中心に、講習会の形式で行っています。

主に短距離を中心に、ハードルや投擲、トレーニングなど、その年によって多少種目等を変えながら行っています。日本代表経験者などのトップ選手から、中学生は本格的な技術指導を中心に学び、小学生は発育・発達に応じた段階的指導を通し、速く走ることの楽しさを学んでいます。最後に選手と一緒にリレーを行うなど、選手との交流を通し陸上競技の楽しさを身近に感じてもらえるように工夫しています。



2. 陸上競技大会 | 東邦カップ・ふくしまリレーズ

陸上競技大会の開催 | 共催

福島陸上競技協会と共催で、毎年10月に「東邦カップ ふくしまリレーズ」を開催しています。2012年から始まり、今年で第10回となります。この大会はリレーを中心とした競技会で、福島県内の小・中・高校生が参加する大会となっています。年によっては、リレーだけでなく、個人種目を実施するなど、福島県の陸上競技の普及に努めるとともに、強化にも貢献していく大会として毎年実施しています。

本大会の成立

- 2011年東日本大震災以降、県内の子ども達の運動の機会が減少し、体力が著しく低下していたこともあり、子ども達の運動の機会を増やしたいという思いから2012年より始まった。
- 子ども達の交流の機会を増やし、バトンを繋ぐリレーで仲間と共に協力し、共に走る楽しさを感じる心を涵養していくため。

また、招待種目として、当行選手を中心に、実業団や大学生の参加するレースも実施し、過去には日本記録も誕生しています。特に小・中学生と一般選手が同じ大会で走ることは多くはないので、目の前で日本のトップで活躍する選手の走りを間近で見て、陸上競技の面白さや魅力を感じてもらえる大会となっています。

第9回大会より、これまで別で開催されていた県小学生クロスカントリーリレーもふくしまリレーズの新種目として加わり、長距離の選手達もチームメイトと共に襷を繋いでいます。



写真左下：ふくしまリレーズにて女子4×200mRの日本新記録を樹立

3. 地域イベント | ももりんダッシュNO.1

地域の皆さんと行うイベント | 特別協賛

「ももりんダッシュNO.1」というイベントは、福島大学陸上競技部・東邦銀行陸上競技部の前監督である故・川本和久先生の下、地元、福島駅前通りで、30mのダッシュ大会を行い、福島の街を盛り上げようと始まったイベントです。

街の皆さんや、福島大学陸上競技部の学生と協力をして、当行も特別協賛として、イベントの盛り上げに協力しています。当行陸上競技部も運営や、当日のMCやゲストランナーとしても参加し、街の皆さんや地元の学生と共に福島駅前を盛り上げるイベントを行っています。

2007年に第1回大会が行われ、コロナ等で中止もありましたが、今年は第16回目の大会として開催されます。参加者は未就学児～70歳以上まで、幅広い年代の方が参加しています。緊急ダッシュと銘打って、消防や警察の方々、そしてキャスターダッシュとして地元テレビ局の方々も参加するなど、地域の方が大勢参加し、参加者も含め、地域の皆さんと共に作り上げるイベントとなっています。



4. 日頃の活動 | 多様なメンバーとともに

活動拠点 | 多くのカテゴリーの選手とともに

当行陸上競技部は、福島大学陸上競技場を拠点として活動しています。福島大学には、福島大学トラッククラブという、福島大学を活動拠点とするクラブがあり、当行陸上競技部も福島大学トラッククラブの一員として共に活動しています。

週末には、当行陸上競技部、トラッククラブの小・中学生、そして福島大学陸上競技部の学生達が一堂に会し、グラウンドで練習しています。当行は福島大学と包括連携協定を結んでおり、その一環として、当行陸上競技部のノウハウを福島大学を通して地域に還元しています。

また、当行陸上競技部にはパラ陸上の選手である、東京パラリンピック日本代表の佐々木選手も所属しています。実業団選手、パラ選手、大学生、地元の小・中学生と多様なカテゴリーの選手たちが、共に陸上競技に励んでいます。

その中で練習は同じ時間、同じ場所で行うので、それぞれに声を掛け合ったり、譲り合いながら活動しています。それぞれがどのように競技に取り組んでいるのかを身近に感じながら、また、互いの良さを見つけることのできる学びの場となっています。



写真左より：中村選手、青木選手、佐々木選手 (T13)
※写真は2021年当時

ともに世界を目指す選手として

当行陸上競技部は、健常者の選手とパラ選手が同じ実業団の選手として日常的にトレーニングを共に行っている、数少ないチームであります。

佐々木選手は視覚に障害がありますが、チーム全員が佐々木選手の状態を理解し、声を掛け合いながら、共に同じトレーニングを行っています。オリンピック、パラリンピックと違いはあれど、共に世界を目指し、それぞれに切磋琢磨し、お互いに刺激をもらいながら、目標達成に向けて競技に取り組んでいます。

これらの活動を通して、

東邦銀行陸上競技部は、
地域の皆さんとともに歩んでいきます。



すべてを地域のために

東邦銀行

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



東邦銀行は、持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。